

奈良県観光戦略本部 平城宮跡周辺エリア部会（第4回）

1. 平城宮跡周辺エリア部会の検討状況 1
2. 平城宮跡周辺エリア部会の主な意見 2
3. 本日、ご意見を頂きたい内容 4

令和7年1月27日（月）

1. 平城宮跡周辺エリア部会の検討状況

現地視察

・
部会での意見交換

第1回（9/9）：平城宮跡の特性、あり方、事業手法、今後の進め方について意見交換



第2回（10/8）：部会委員から、構想・コンセプト、導入機能についてアイデア出し

第3回（12/16）：平城宮跡のあり方（素案）、事業手法（素案）

第4回（1/27）：平城宮跡のあり方（案）、事業手法（案）

部会での
アイデア出し

<事務局からの提案>

- 平城宮跡のあり方（案）
 - > 奈良時代（平城京）の特性
 - > 構想・コンセプト
 - > ターゲット
 - > 導入機能
 - > 時間軸での整理
- 事業手法（案）

- ・第3回部会の意見等、
を踏まえ、
ブラッシュアップ
- ・さらに、部会委員から
アイデアを頂く



部会での
とりまとめ

第5回（3/21）：平城宮跡のあり方のとりまとめ
事業手法（案）、事業者選定条件（案）について意見交換

2. 平城宮跡周辺エリア部会の主な意見

■ 第1回（9/9）：現地視察、意見交換（平城宮跡の特性、あり方、事業手法、今後の進め方）

- 1300年前に都の中心部があった平城宮跡は、世界的にみてもすごい場所だと思うので、多くの人が集まるような仕掛けを考えていきたい。
- 地元の文化を活かしたコンテンツを作るべき。
- 人が集まるような居心地の良い空間を作るべき。
- 伊勢神宮とおかげ横丁のように、聖と俗を対比させる。俗が集客率を上げる。
- 活動や施設には、ストーリーがないといけない。
- 何を大切にするのかを議論した上で、民間事業者を選ぶべき。
- 様々な分野の専門家が集まるこの部会が、アイデアを出していきたい。

■ 第2回（10/8）：部会委員からのアイデア出し

（1）ハードについて

- 大宮通りより北側は聖のエリア、南側は俗のエリアとするなど、エリア分けが必要。
- 平城宮跡単体でなく、県内外とのつながり（ストーリー）を確保できる施設が良い。
- インバウンドを含め、多様な方をターゲットにするには、極めてシンプルなコンセプトが望ましい。
- 日本の始まりの奈良であり、日本食のルーツ。食文化を軸とした提案ができると面白い。
- 平城京のあの場所に行けば、奈良にあるおいしいものを食べられる施設など、わかりやすく、人を惹きつける施設が望ましい。
- 世界的に注目されている発酵文化に関する施設など、明確に差別化できる施設が必要。
- 奈良公園に訪れる多くの人をうまく誘導できるしかけが必要。
- 河川や道路などで、奈良公園から平城宮跡へ、空間的に地域をつなげると良い。

（2）ソフトについて

- インタラクティブでライブ感があるなど、強いコンテンツ、強い体験が必要。
- 広さを活かし、歴史的な体験と現代的な体験を融合したエンタメを創れると面白い。
- ARやMRなどのテクノロジーを活かして、移動をエンタメ化できると面白い。
- 復原活動や発掘活動が参加型でできる体験は、唯一無二の体験となる。

2. 平城宮跡周辺エリア部会の主な意見

■ 第3回（12/16）：部会委員からのアイデア出し（部会委員に発言部分等の確認中）

（1）平城宮跡のあり方（素案）について

- コンセプトや導入機能が総花的な印象を受ける。
- 世界的にみても注目を浴びる平城宮跡の事業として、コンセプトは、インパクトのあるもの、シンボリックな建築物があるもの、時間軸で捉え、過去から未来へのメッセージ性があるものでないといけない。
- 施設にばらつきがでないよう、事業全体の絵姿やイメージを共有できるようなコンセプトが必要。
- 春日若宮おん祭りなど、奈良には信仰が生きている。それにリスペクトを払う考え方も必要。
- 事業をマネタイズするためにも、大宮通りより南側は俗のエリアとして、奈良の食文化に着目した事業など、収益を上げられる事業を前提とすべき。
- この場所で働きながら住み、主体的に取り組む人と交流することで生まれるにぎわいもある。
- 広大な園内の移動支援だけでなく、夜間も含め、主体的に取り組む人のための交通インフラも必要。
- 河川空間や道路空間の活用など、平城宮跡を含む広域的な視点も重要。

（2）事業手法（素案）について

- 民間事業者の資金やノウハウを活用し、平城宮跡のにぎわいづくりを実現するため、本事業の役割分担は、民設民営を想定。
- 事業全体を県がコントロールできるようなスキームを検討する必要がある。
- 民間事業者を選定して終わりではなく、テナント貸しなど、民間事業のなかでも競争原理を働かせられるようなスキームにすべき。
- 事業のプロセス自体やムーブメントを楽しむ（観光化する）手法もあり得る。
- 事業のプロセスを情報発信していくことで、関心を高める手法もあり得る。
- 事業をマネタイズしていくためにも、段階的に事業化して、徐々にエリアを広げる手法もあり得る。
- 平城宮跡の収益性だけに注目するのではなく、周辺への波及効果、経済効果を見込んでよい。
- 部会で検討している平城宮跡のあり方や事業手法が、民間事業者の事業ベースに乗り得る内容となっているのかを確認するためにも、サウンディングをすべき。
- サウンディングを実施する場合は、部会の検討状況を踏まえ、どのような相手方に行うのかなど、方法を十分に検討する必要がある。

3. 本日、ご意見を頂きたい内容

○ 平城宮跡のあり方（案）

- 奈良時代（平城京）の特性
- 構想・コンセプト
- ターゲット
- 導入機能
- 時間軸での整理

○ 事業手法（案）

- 民間事業者の選定方法
- 官民の役割分担

○ 今後のすすめ方